

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 清原東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 65人 国語B 65人

② 算数A 65人 算数B 65人

5 留意事項

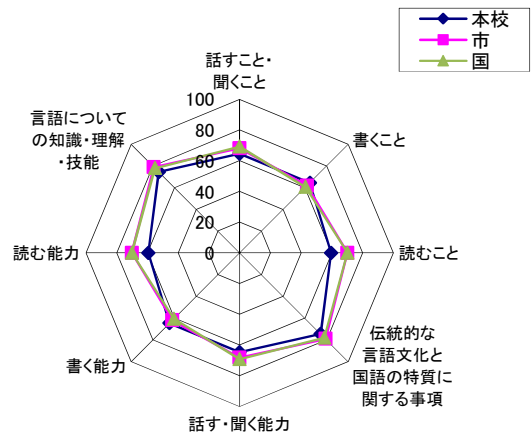
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原東小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

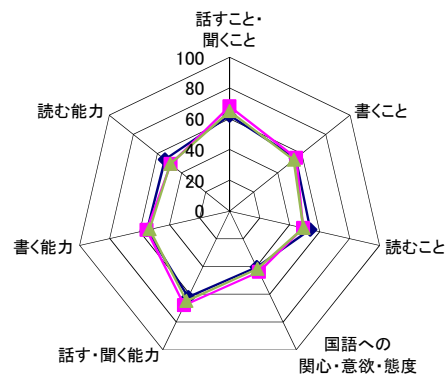
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	64.6	68.2	69.2
	書くこと	64.6	62.0	60.6
	読むこと	59.5	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.5	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	64.6	68.2	69.2
	書く能力	64.6	62.0	60.6
	読む能力	59.5	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	74.5	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	62.1	68.0	64.9
	書くこと	55.1	55.3	53.4
	読むこと	53.8	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	40.5	43.9	41.7
	話す・聞く能力	62.1	68.0	64.9
	書く能力	55.1	55.3	53.4
	読む能力	53.8	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

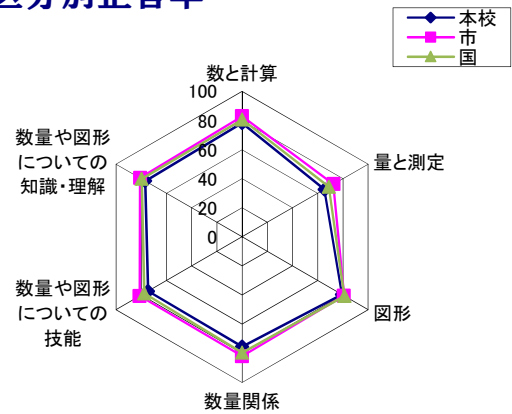
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国語A, Bともに、どの質問においても国の正答率をやや下回っている。	・話し合いでは、目的や意図に応じて話の構成や内容を工夫したり、互いの話を聞きながら適切な言葉遣いで話し合ったりする機会を増やす。
書くこと	○国語Aの手紙の構成を理解し、後付けを書く問題や国語Bの目的や意図に応じて文章を書く問題では、全て国の正答率を上回っている。	・目的や意図に応じて構成を考えながら必要な内容を整理して書く機会をさらに設ける。
読むこと	○国語Bの登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題や、自分の考えを広げたり深めたりするために発言の意図を捉える問題では、国の正答率を上回っている。 ●国語Aの目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけて読んだり、俳句の情景を捉えたりことわざの意味を理解したりする問題は、国の正答率を下回っている。	・目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけて読むことや、俳句、ことわざ等の日本古来の言語への理解に課題が見られるので、それぞれの活動を扱う学習を意図的に増やすようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●学年別漢字配当表に示されている漢字の読み書きについては、国の正答率をやや下回っている。	・既習の漢字の読み書きについては、小テストや50問テストを活用し、反復練習をして定着を図る。

宇都宮市立清原東小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

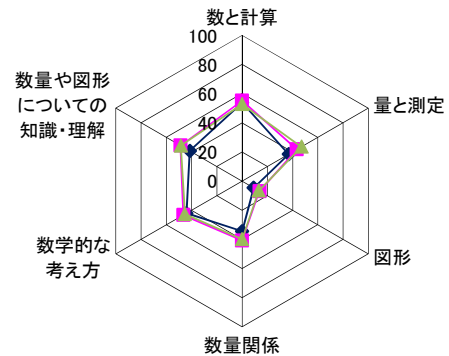
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	78.3	82.9	80.6
	量と測定	65.4	72.5	68.8
	図形	79.2	80.8	81.1
	数量関係	75.4	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	74.6	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	76.9	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	53.8	55.1	52.8
	量と測定	36.9	43.4	47.0
	図形	9.2	13.8	13.2
	数量関係	34.4	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	44.1	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	41.5	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○算数Bでは、国の平均正答率を上回っている。</p> <p>○算数Bの示された考えを基に、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを図に表す直線の数とその間の数の関係に着目し回答する問題では、国の平均正答率を上回っている。</p> <p>●算数Aでは、国の平均正答率を下回っている。</p>	<p>・小数の計算の定着が図れるよう、授業での復習や朝の学習、宿題などで繰り返し問題に取り組ませる。</p>
量と測定	<p>●算数A・Bともに国の平均正答率を下回っている。</p> <p>●算数Aでは、高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係の理解が不十分なため、平行四辺形の面積の半分の面積である三角形を正しく選ぶことができず、国の平均正答率を下回っている。</p> <p>●算数Bの仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める問題では、国の平均正答率を10%以上も下回っており、理解が不十分である。</p>	<p>・平行四辺形、三角形などの公式の意味を考えさせ、図や文章などに表現させることにより、求め方について実感を伴って理解できるようにする。</p>
図形	<p>○算数Aの正五角形は、合同な二等辺三角形で構成できることを理解しているか問う問題では、国の平均正答率を上回っている。</p> <p>●算数A・Bともに国の平均正答率を下回っている。</p>	<p>・立体模型を用いたり、工作用紙を利用して様々な種類の展開図を組み立てたりすることにより、面と面との位置関係を実感を伴って理解できるようにする。</p>
数量関係	<p>○算数Bの示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るか選ぶ問題では、国の平均正答率を上回っている。</p> <p>●算数A・Bともに国の平均正答率を下回っている。</p> <p>●算数Bでは、記述式の問題で5問中4問が国の平均正答率を下回っており、無回答率も高い。</p>	<p>・自分の考えを書く活動を取り入れ筋道を立てて説明する力を育めるようにする。学年に応じた説明の言葉の指導も取り入れる。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。」と回答した児童が100%と県と全国の平均を5ポイント上回る。「自分には、よいところがある。」と答えた児童は80%と県の平均と同水準である。自己肯定感がさらに高まるように励ましていく。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」と回答した児童が100%と、県や全国の平均を上回る。また、「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる。」と答えた児童が89.2%と県や全国の平均を上回る。話し合い活動において相手の意見を聞く態度が身に付いていることが分かる。

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」と答えた児童は、81.5%、「家で学校の授業の予習をしている。」と答えた児童は58.5%と県と全国の平均をそれぞれ10ポイント以上上回る。「家で学校の宿題をしている。」と答えた児童も98.5%と県と全国と同等の水準である。家庭学習の習慣が身に付いていることがうかがえる。

○「学校に行くのは楽しい。」と答えた児童は95.4%、「学校で、友達に会うのは楽しい。」と答えた児童は100%と県と全国の平均を上回っており、学校が好きで友達関係が良好な様子がうかがえる。

○「国語(算数)の授業は好き。」「読書は好き。」「国語(算数)の勉強は好き。」「国語(算数)の授業はよく分かる。」と回答した児童は、県と全国の平均と同等か上回っており、学習に対して意欲的で、前向きに取り組んでいる様子が分かる。

●話し合い活動において、友達の意見を聞くことが出来ている反面、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意」と答えた児童は、49.3%で県と全国の平均を下回る。これまで以上に少人数の話し合い活動を増やしたり、積極的な姿勢や良い意見を賞賛したりするようにする。

●「5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。」と答えた児童は、73.9%と県と全国の平均を下回る。授業の最後に振り返る時間を確保して、自分の課題を明確にさせることで、家庭学習で復習をする時間を十分確保できるように支援していく。

●「テレビゲームの時間が3時間以上である。」「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている児童が3時間以上である。」と回答した児童は、それぞれ10.8%、1.5%と県や全国の平均を下回っているものの、「テレビやDVDを見ている時間が1日あたり3時間以上である」と回答した児童が33.9%と県と全国の平均を上回っている。また、「家の人と学校の出来事について話をする。」と回答した児童も75.4%と県、全国の平均を下回っている。学年だよりや長期休業前のおたよりなどを通して家庭での過ごし方について啓発していく。

●「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい。」と回答した児童は69.2%、「学校の授業などで、自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい。」と回答した児童は、61.5%と県、全国の平均を上回っている。授業において、例文を参考に説明文を書かせて書き方を身に付けさせたり、定期的に作文の宿題を出したりすることで自分の考えを書くことができるように支援していく。

宇都宮市立清原東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	・授業の終末に、本時の課題に対するまとめを板書して確認し、一人一人が分かったことなどを振り返りノートに書く時間を確保している。	・児童質問紙の「振り返る活動」に関する質問項目について、「はい」と回答している割合は、73.9%であり、全国の平均よりも下回っている。
基礎・基本を確実に身に付けさせる指導の工夫	・分かる授業の展開(効果的な発問・助言・指示・課題提示からまとめまでの板書の工夫、教材・教具の工夫等) ・朝の学習の充実	・教科に関する調査結果において、算数A・Bともに量と測定に関する問題で、正答率が全国の平均よりも下回った。 ・国語では、「文章を書くこと」において全国の平均を上回っているものの、「目的に応じて文章を読み取ること」については全国の平均を下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
児童質問紙において、「学校の授業などで、自分の考えを他人に説明したり文章に書いたりすることは難しい。」と回答した児童は、61.5%と全国の平均を上回った。文章を書いたり説明したりすることに抵抗を感じている児童が少なくない。	自分の考えを文章にまとめる指導の工夫	・授業の中で、しっかりと自分の考えを書く場を設定する。 ・自分の考えや思いを書くスキルを身に付けさせる。 ・授業の終末に振り返りや感想を書くようにする。 ・日記指導やミニ作文指導を充実させる。